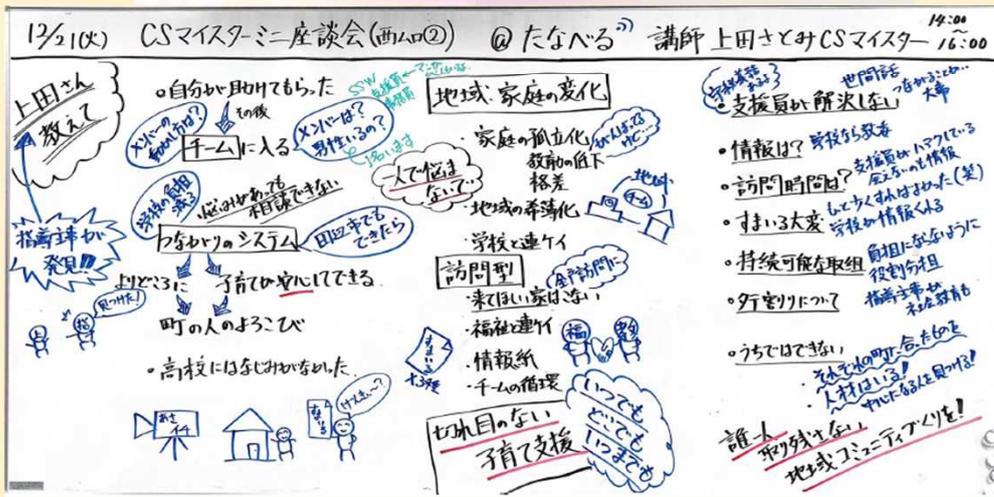




昔は普通にあった「ちょっとしたお節介」が、今こそ必要ですよ。

いつでも(時間や日にち関係なく)
 どこでも(スーパーや出会った所が支援の始まり)
 いつまでも(生まれたときから終わりなく)
 気づく(見つける)
 見守る(寄り添う)
 繋げる(関係機関につなげる)



参加者の皆さん、上田さんの話を聞く前と聞く後でイメージは変わりましたか?

- ・小さな座談会で肩を張らずに参加できました。上田先生の話も身近に聞いて良かったです。
- ・支援員の人選、対応の仕方、保護者への寄り添い方。目からウロコの話ばかりでした。
- ・キーワードは「心から寄り添うこと」大変勉強になりました。
- ・上田さんの人柄も含めて、取組がすごいと思いました。内容も分かりやすかったです。
- ・湯浅町の取組、じっくり聞くのは初めてでした。変な言い方かもしれませんが、楽しかったです。
- ・「家庭を変える、良くする」ということではなく、「現状維持」という言葉が新鮮に聞こえました。
- ・うちの町にも上田さんが欲しい!。きっと負担はすごいと思いますが、それをやってのける上田さんはスゴイと思いました。ありがとうございました。
- ・「義務教育終了後の支援について」「つながりにくい家庭に対して」という上田さんの問題提起、まさに高等学校での課題だと考えています。学社連携をより深化させていく必要があると思います。
- ・現在過疎高齢化の公民館で「なんでも相談」の取組を行っています。これにも「訪問型」が必要ではないか。そんなことを考える機会となりました。



皆さんの町にも「お節介が好きな人」はきっといます。何かありましたら、いつでも連絡くださいね。今日はありがとうございました。